

1

陽気

油

負ける

血

暗記

来客

2

レ

気

ぶ

イ

②
エ

⑥
イ

⑧
ウ

エ

エ

ウ

3

(記述題)

IV

標識調査

二つめ
夕
三つめ
翌

イ

あん

色あ

3

多くの渡

2

2

白

黒

青

銀

生存

何を

アウエ

(5 順不同・完答)

鳥がある時点でどこか別の場所へ飛んでいくこと。

(同意可)

配点

1・2 1・3 6 各2点×13=26点

3 1 6点

その他 各4点×17=68点

〈計〉100点

1

- 1 「陽」の右側を「易」のように書かないように気をつけよう。
- 2 「油」の右側は「田」ではなく「由」である。「由」とわかるようにはつきり書こう。
- 3 しいて争わず、相手に勝ちをゆずったほうがかえって自分にとってよい結果になることを「負けるが勝ち」という。
- 4 漢字では「血眼」と書き、「一つのこと」に夢中になる」という意味になる。
- 5 「暗記」の「目」を「目」にしたり、「口」を続け字にしたりすることのないようにしよう。
- 6 「来客」は「訪問客」ということもある。どちらも「たずねてきた客」のことである。

2

- 1 A「レッスン」は「授業、けいこ」、B「気色ばむ」は「怒りを表情や態度に表すこと」、C「いぶかしい」は「疑わしく思うさま、怪しく思うさま」である。
- 2 通読の際に、「わたし」はどこでガラスペンを拾ったのかという疑問を持ちながら読み進めてほしい。すると、――線⑤を含む段落に「わたしが見つけたのは、最後部の席のいすの下だ」と書かれてあることに気づけただろう。「最後部」なのだからアとウは不適ということになる。さらに「あそこに三田さんだ」とも書かれているのでエも不適ということになる。
- 3 () ② は「階段下のせまいスペース」という人目につかないところで話をしているということや、後の畠山さんの話しぶりからも、「ねえ」はイ・ウ・エのようなマイナスの心情をともなった声で発言していると考えられる。ただ、わかながなくしたはずのガラスペンが「三田さんのいすの下」に落ちていたと言われたのだから () ⑥ にはイが、なくして人のせいにしていたのがわかなではなく三田さんだったとわかったのだから () ⑧ にはウがはいると考えるのが妥当だろう。
- 4 「階段下のせまいスペース」から「返してくれない」という、ドキリとするようなことが聞こえてきたのである。
- 5 畠山さんと三田さんから解放されてほっとして、また、気持ち疲れてしまっと思わず「大きく」「息をはきだした」のである。――線④を含む段落の終わりの「小さく」たよりなげだった」からもエのような気持ちの強さは感じられないだろう。
- 6 文学的文章では、風景や景色などを描写することで、登場人物の心情やその後の展開を暗示することがある。「カラリと晴れあがった日が恋しくなる」というところから、この場面で「わたし」が何を求めているのかを考えてみよう。
- 7 畠山さんの前で「わたしのせいにする気？」と言っていたのに、自分が落としていたのである。畠山さんの前ではやはり受け取りにくいだろう。
- 8 「そのとたん」「ガラスペンのことを思い出した」のだから、もどすべきところの直前では、ガラスペンのことを考えてはいないはずである。また、「そのとたん」とあるので、直前にはガラスペンを思い出すきっかけのようなものがあるはずだとわかる。
- 9 わかなの様子について書かれている箇所をねばり強くさがしていこう。「色あせたTシャツ」からは新しい服がなかなか買えないことが、「やせた背中」からは満足に食えることができていないことがそれぞれ読み取れる。
- 10 文学的文章では時間や場所、登場人物が変化するタイミングで場面が切り替わることが多いことを覚えておこう。「放課後(学校)」「夕飯後(自宅)」「翌日(学校)」となっている。

3

- 1 「渡り」とは何なのか、「鳥が」「行うこと」とは何なのかと疑問を持って、後続部分を読み進めよう。すると、直後の段落で「ある季節になると鳥がいなくなる」と書かれてあり、さらに続きを見ていくと、「ある季節になると鳥がいなくなるのは、鳥がどこか別の場所に飛んでいくためだ」と書かれてあった。このあたりをうまくまとめた。
- 2 (IV) の前後では、長距離を渡るための要因がならべられているので、ここにだけ「しかし」などの逆接の接続詞がない。
- 3 問1と同様に読み進めていくと、『標識調査』が実施された「これにより鳥がどこか別の場所に飛んでいくためだ」ということが初めて明らかになった」とある。
- 4 ③ は「3つの切り口」の三つめなので、二つめの「渡りにはどんな見返りがあるのか？」のあとに書かれているはずである。
- 5 「羽ばたき飛翔によって渡る種類の場合、体重が軽い種類だけが長距離を渡る」「滑空は自らのエネルギーを使わずに飛ぶことができるので、体重とは無関係に長距離を飛べる」から答えを決めよう。
- 6 A「白地図」は「輪郭だけが描かれた地図」、B「大黒柱」は「家の中央にある最も太い柱、一家や団体の中心になる人」、C「青二才」は「年が若くて未熟な男」、D「銀世界」は「一面が雪でおおわれた真っ白な景色」である。
- 7 「(渡りによる)見返り」の話になっている文章の後半から、どういうことに有利な気候や食物を得られるのか考えながらさしていきこう。
- 8 ☆の後には、「3つの切り口」の一つめである「(長距離の渡りを可能にする)形態的・生理的要因」について、「多くの渡り鳥は」からは、二つめの「(渡りによる)見返り」について書かれていた。そして、★以降は問4でも触れたとおり、「切り口」の三つめになっている。よって、「切り口」の一つめから二つめに切り替わるところが分けるべき箇所になる。
- 9 I:「古くから」から始まる段落内に、「細くて適している」と書かれているので翼の形は重要である。
II:文章の前半に「鳥がいつどこに渡るのかに対する私たちの理解は劇的に進んでいる」とはあるが、「鳥がなぜ渡るのか」という問いは、いまだに完全には解明されていない」とある。

以上